



今年もまた本校で音楽を楽しむ日がやってきます。回を重ねて31回目を迎える今年のサマーコンサートは、初めての7月開催となりました。昨年、第30回という大きな節目を迎え、今年、また新たな10年

語り手（歌詞の中に「わたし」がないのは興味深い）は、リボンの結ばれた「あなた」からの贈り物を婚約指輪なのではと重く受けとめたのだろうか。学生の身の「あなた」はドングリにどんな想いを込めたのだろう。軽いジョークなのだろうか。二人の愛で実のなる大きな木を育てたいという想いなのだろうか。いずれにせよ、このような誤解やされ違いは人生において誰にも、ある。

内容を簡潔に歌詞でたどると、「長い年月が過ぎて理由も忘れてほどいてる／色のあせたりボン／小箱には綿くるまれて／ドングリがきょとんと光ってた」そして最後は、「五月の陽ざしの中で／あの素直な笑顔の人を思い出してみます／『ありがとうございます』でよかったですのにね／ドングリにまで気の毒なことをしました」で結ばれる。

さて、今回はひよんなことから出会った「五月の陽ざし」を読んでみた。時間によつて浄化された想い。心の中の忘れもの。小雨や雪が降っている中や曇天の下では、絶対に味わえない世界であろう。五月のさわやかな季節を存分に味わえたろうか。

うのは、私はその歌を聞いたことがなく、原稿のネタを探すべく、「五月」を検索していくのである。この歌は、「遠い日のあなたの贈り物／まだ開けてみることもなかつた／リボンを見ただけで何か重い気がしてしまつたんです」で始まる。内容を簡潔に歌詞でたどると、「長い年月が過ぎて理由も忘れてほどいてる／色のあせたりボン／小箱には綿くるまれて／ドングリがきょとんと光ってた」そして最後は、「五月の陽ざしの中で／あの素直な笑顔の人を思い出してみます／『ありがとうございます』でよかったですのにね／ドングリにまで気の毒なことをしました」で結ばれる。

